

第2章

生産

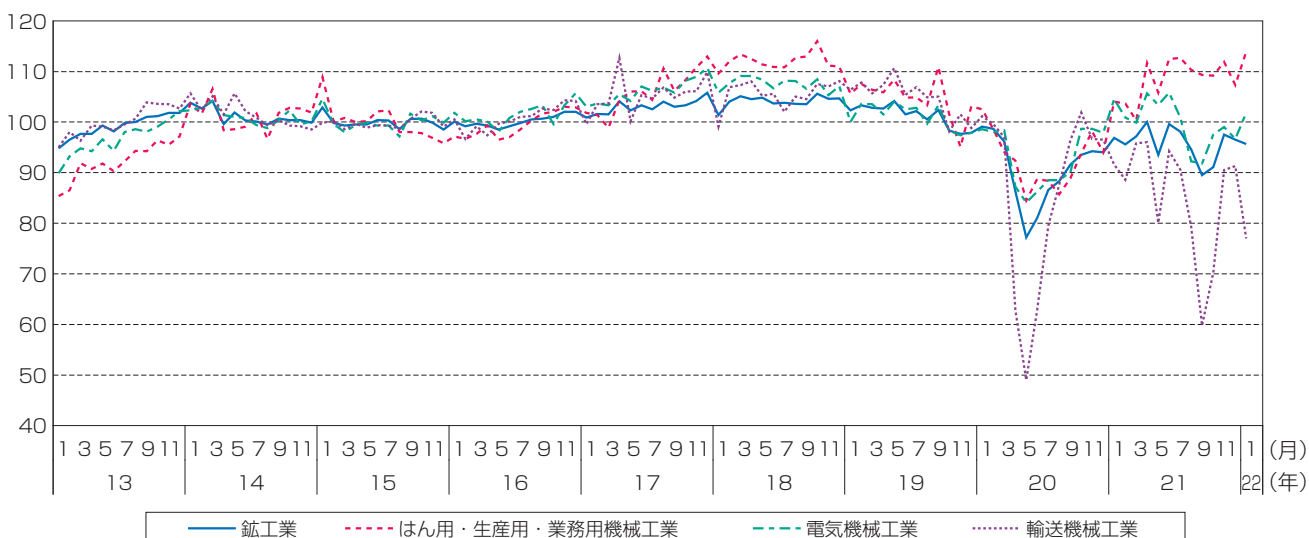
《第1節 生産・出荷・在庫の足下の状況》

鉱工業生産活動の全体的な水準を示す鉱工業生産指数をみると、2020 年前半は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による需要の低迷や生産調整などにより、輸送機械工業を始めとして大幅に低下した後、同年後半から国内外での経済活動の回復が進み、上昇に転じた。2021 年に入ると、はん用・生産用・業務用

機械工業が好調に推移する一方、同年7月以降、世界的な半導体不足などの影響により、輸送機械工業や電気機械工業が低下した。その後、同年10月には一時的に上昇に転じたが、部材供給不足などの影響を受け、2022年1月に輸送機械工業が再度低下した（図210-1）。

図 210-1 鉱工業生産指数の推移

(2015年の平均値=100、季節調整値)



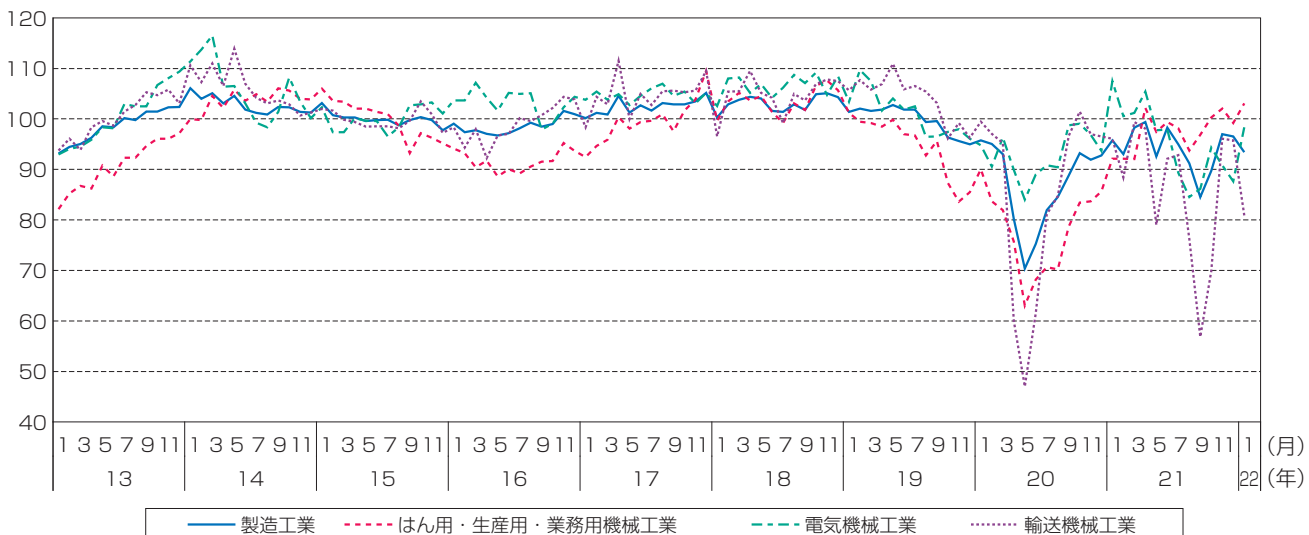
資料：経済産業省「鉱工業生産指数（2022年1月確報）」（2022年3月）

また、生産量と生産能力の比から求められ、製造工業の設備の稼働状況を表す稼働率指数も、2021年7

月以降低下及び上昇を繰り返している（図210-2）。

図 210-2 稼働率指数の推移

(2015年の平均値=100、季節調整値)

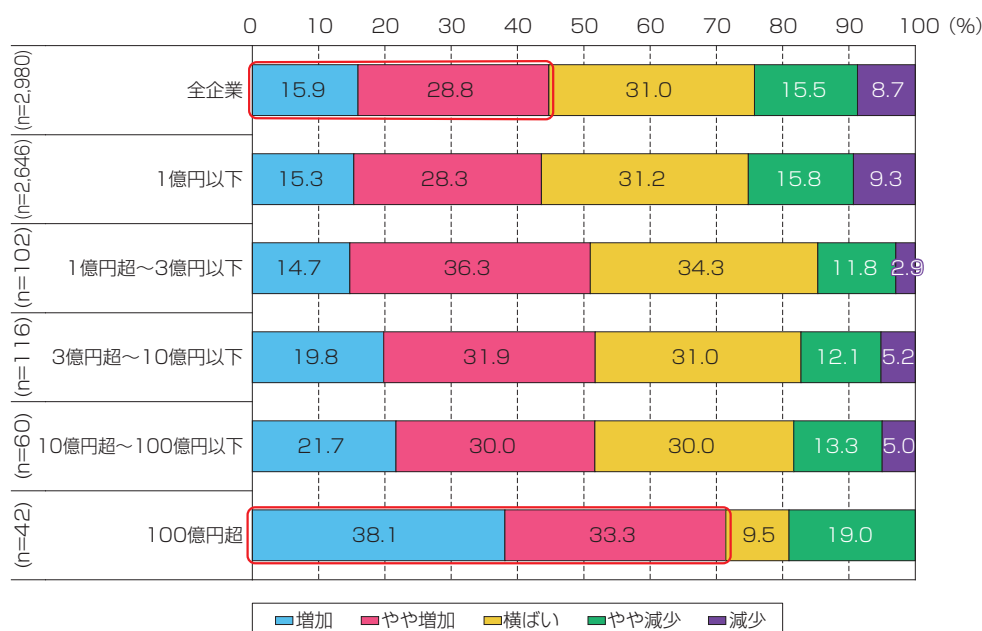


資料：経済産業省「製造工業生産能力指数・稼働率指数（2022年1月確報）」（2022年3月）

また、直近1年間の生産量の動向把握を目的に実施された、生産量の変化についての事業者の認識に関する調査によれば、2021年度の実生産量については、「増加」及び「やや増加」の割合が約4割を占めている（図

210-3）。また、資本金別に比較すると、資本金100億円超の企業において、「増加」及び「やや増加」の割合が約7割となっており、大企業を中心に生産量が増加していることが分かる。

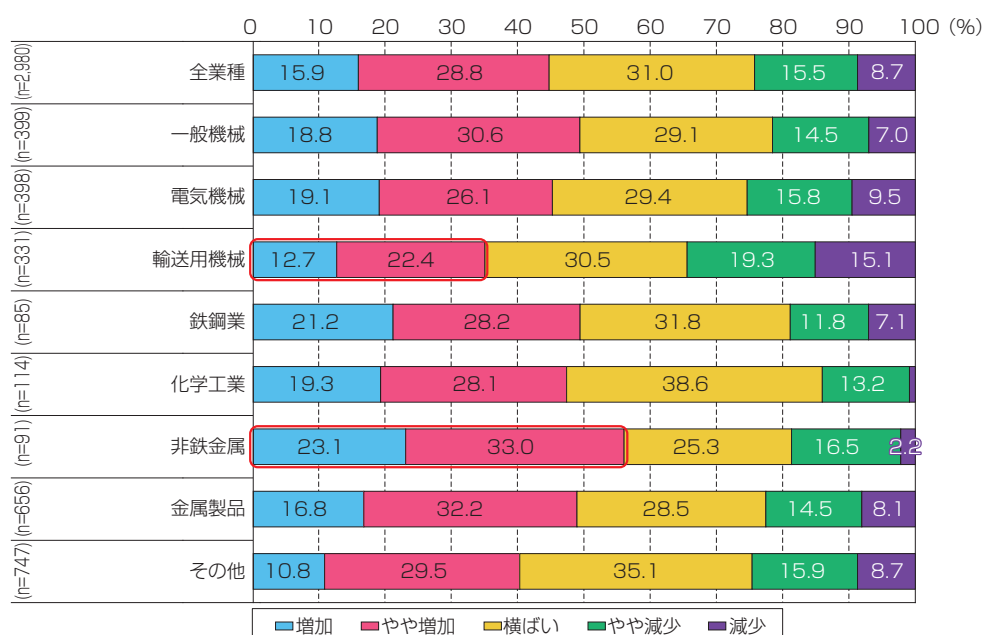
図 210-3 生産の状況（資本金別）



資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）「我が国ものづくり産業の課題と対応の方向性に関する調査」（2022年3月）

業種別に比較すると、非鉄金属において「増加」及び「やや増加」の割合は約6割となっているのに対し、輸送用機械は約4割にとどまっている（図 210-4）。

図 210-4 生産の状況（業種別）



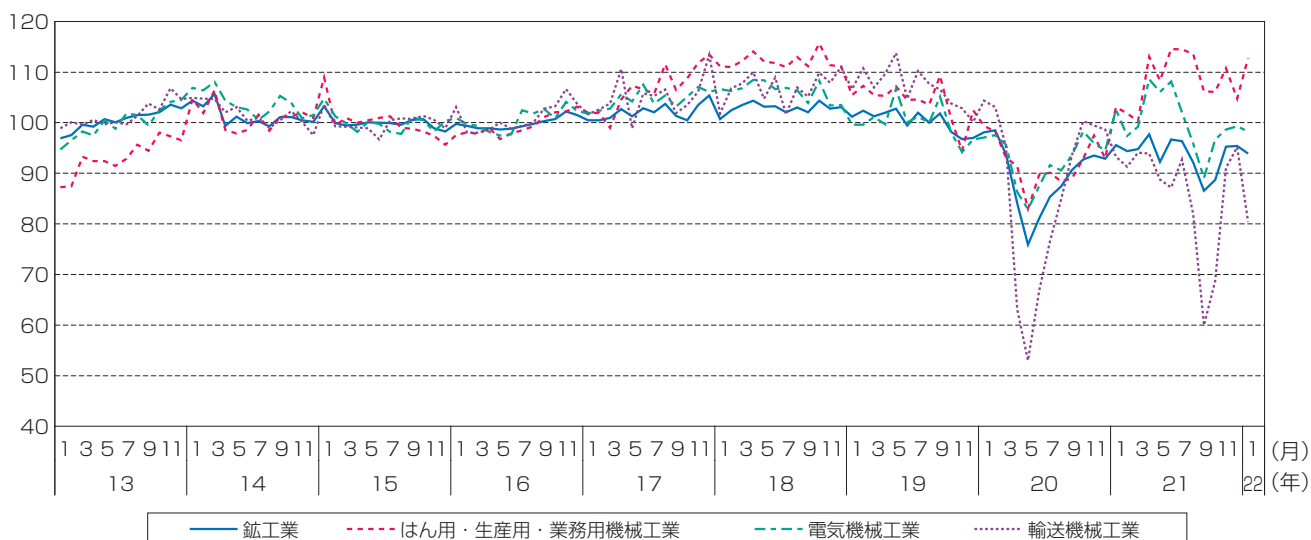
資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）「我が国ものづくり産業の課題と対応の方向性に関する調査」（2022年3月）

次に、出荷の状況について、生産活動によって産出された製品の出荷動向を総合的に表す鉱工業出荷指数をみると、2021年4月には新型コロナウイルス感染

症の感染拡大前の水準まで回復したが、7月以降低下及び上昇を繰り返している（図 210-5）。

図 210-5 鉱工業出荷指数の推移

(2015年の平均値=100、季節調整値)

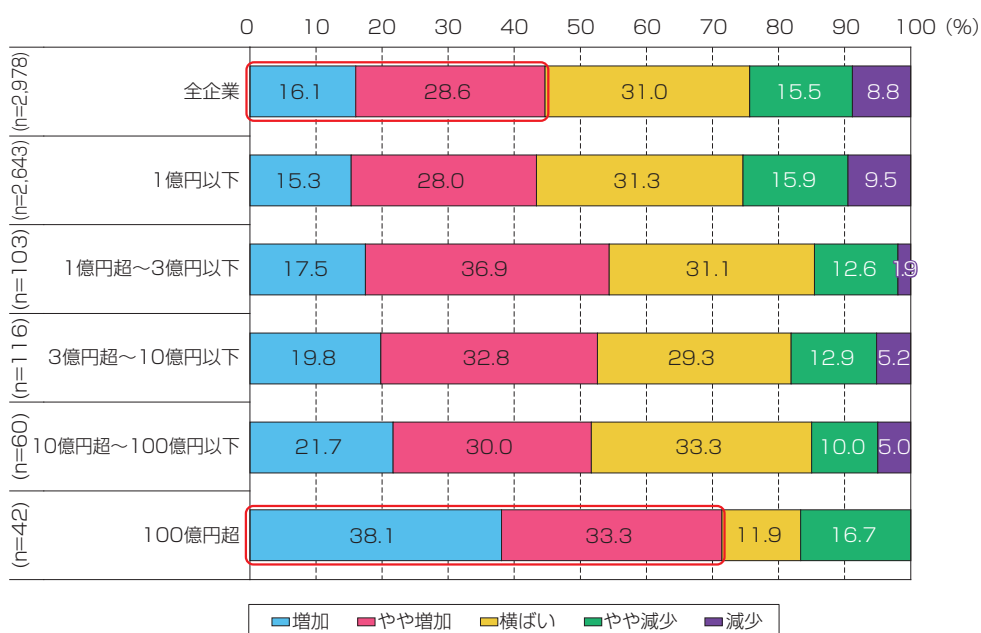


資料：経済産業省「鉱工業出荷指数（2022年1月確報）」（2022年3月）

直近1年間の出荷量の動向把握を目的に実施された、出荷量の変化についての事業者の認識に関する調査によれば、2021年度の出荷量については、「増加」及び「やや増加」の割合が約4割を占めている

（図 210-6）。また、資本金別に比較すると、資本金100億円超の企業において、「増加」及び「やや増加」の割合は約7割となっており、生産量の傾向と同様に、大企業を中心に出荷量が増加している。

図 210-6 出荷の状況（資本金別）

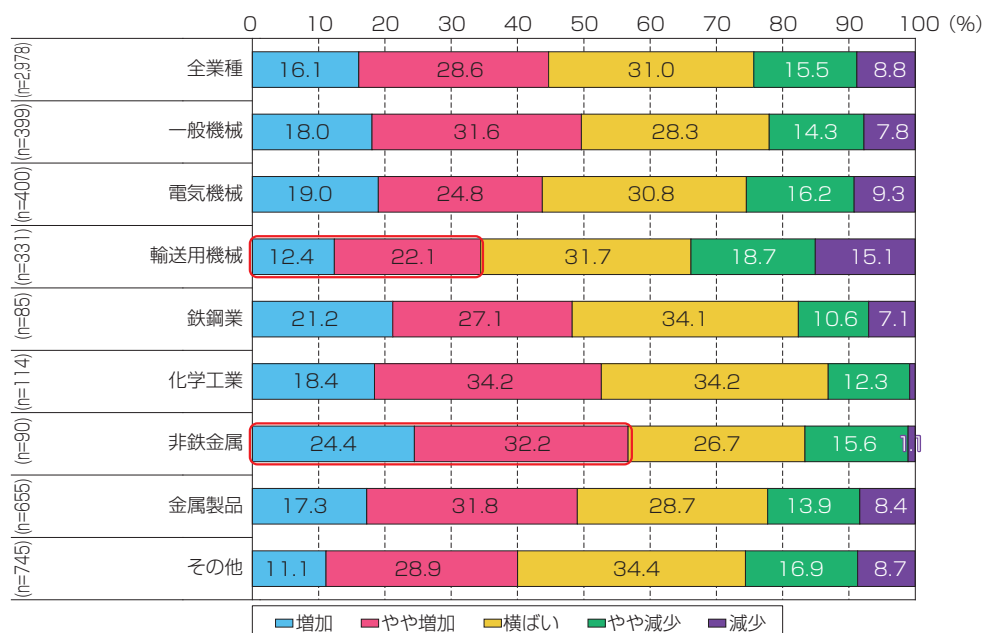


資料：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（株）「我が国ものづくり産業の課題と対応の方向性に関する調査」（2022年3月）

業種別に比較すると、非鉄金属においては、出荷量が「増加」及び「やや増加」の割合が約6割となって

いるのに対し、輸送用機械は約3割にとどまっており、生産量と同様の傾向を示している（図210-7）。

図210-7 出荷の状況（業種別）



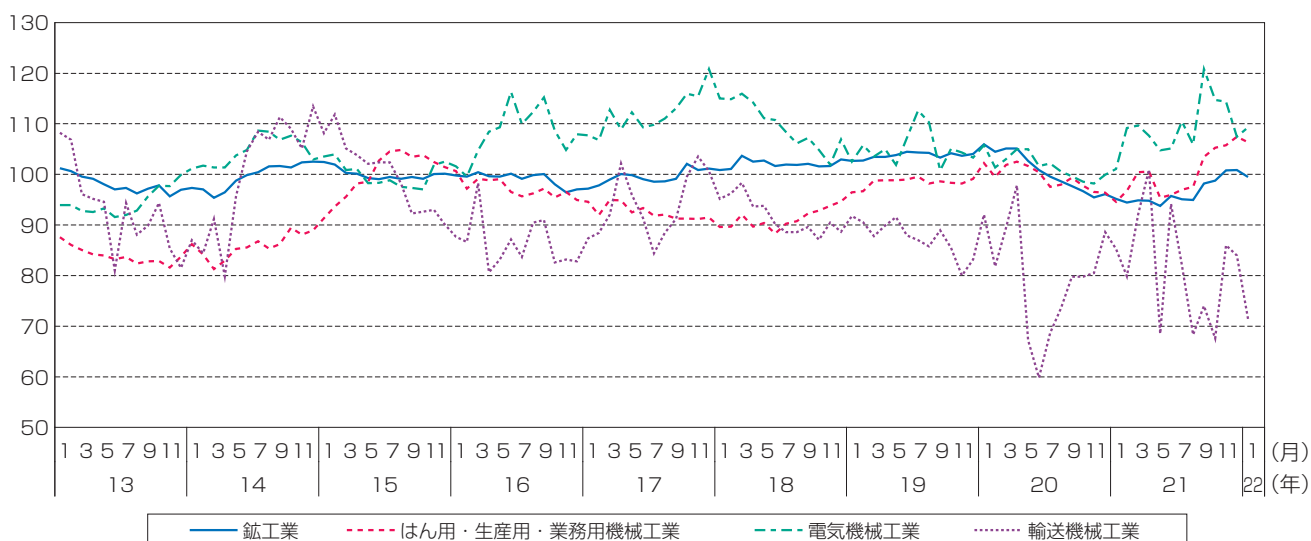
資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）「我が国ものづくり産業の課題と対応の方向性に関する調査」（2022年3月）

続いて、在庫の状況について、生産活動によって産出された製品が出荷されずに生産者の段階に残っている在庫の動きを示す鉱工業在庫指数をみると、2020

年5月以降低下傾向が続いていたが、2021年6月以降上昇に転じている（図210-8）。

図210-8 鉱工業在庫指数の推移

（2015年の平均値＝100、季節調整値）

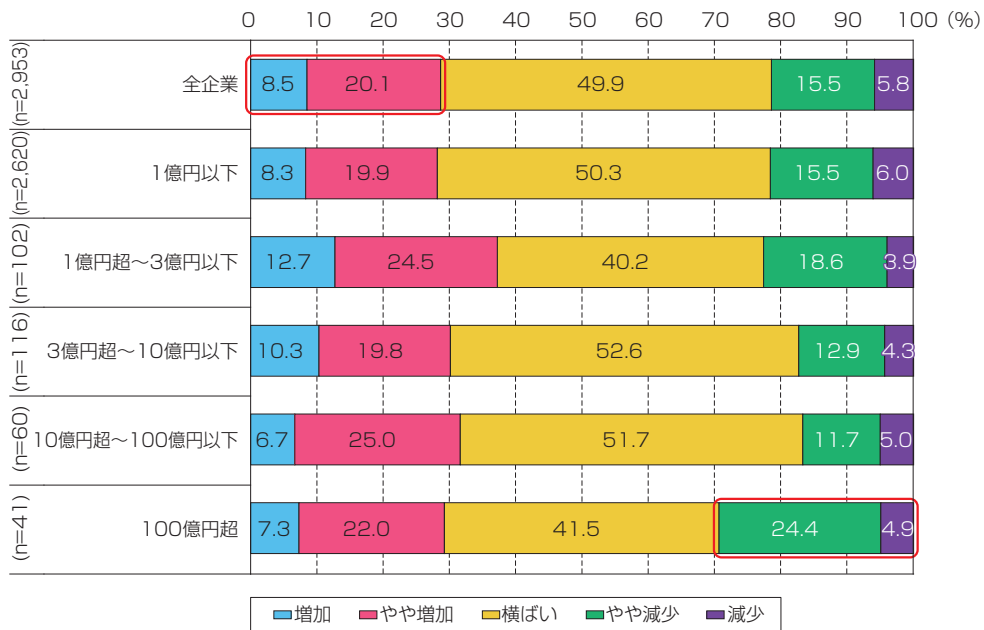


資料：経済産業省「鉱工業在庫指数（2022年1月確報）」（2022年3月）

在庫量の直近1年間の動向把握を目的に実施された、在庫量の変化についての事業者の認識に関する調査によれば、2021年度の在庫量については、「増加」及び「やや増加」の割合が約3割を占めている（図210-9）。前述の通り、生産及び出荷については「増

加」及び「やや増加」が約4割を占めていたことから、在庫の増加は生産及び出荷のそれよりも若干緩やかである。在庫について資本金別に比較すると、資本金100億円超の企業では、資本金100億円以下の企業よりも「減少」及び「やや減少」の割合が大きい。

図 210-9 在庫の状況（資本金別）

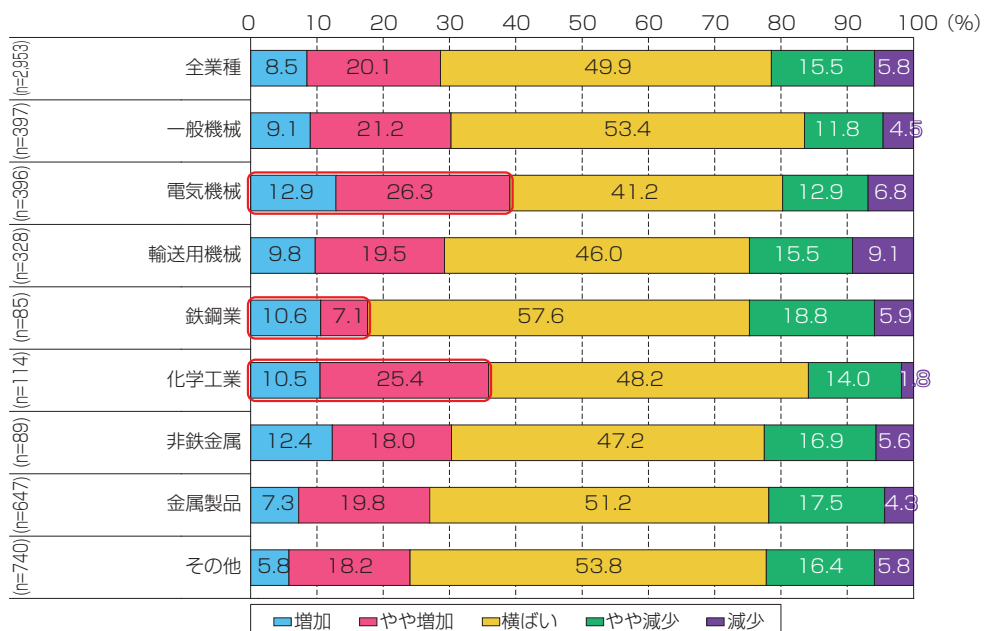


資料：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（株）「我が国ものづくり産業の課題と対応の方向性に関する調査」（2022年3月）

業種別に比較すると、電気機械、化学工業において「増加」及び「やや増加」の割合は約4割となってい

るのに対し、鉄鋼業においては約2割にとどまっている（図210-10）。

図 210-10 在庫の状況（業種別）



資料：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング（株）「我が国ものづくり産業の課題と対応の方向性に関する調査」（2022年3月）